



立山頂上

私は今、日本三霊山立山の頂上に立った。一万尺巖頭の神庭に相對するものは神と私だけである。心眼に見ゆるものは全て神の光、心耳に聞ゆるものは全て神の声。神は私以外の何ものにも与えない大いなる使命を私に与えている。私は神の子として私一人の尊い人生を力強く生きよう。今、天地合掌の立山頂上に立って私は固く心に誓った。

立山雄山神社

立山は大宝元年（七〇一）に越中国司佐伯有若公の嫡男有頼公が十六歳の時、神示により開山したと伝えられます。それ以来千三百年の間富士山白山と共に日本三霊山の一として全国から尊敬されてきました。富山県では少年時代に立山に登拝しない者は一人前にならないという風習がありました。祭神は天手力雄神（災難消滅家内安全の守り神）伊邪那岐神（職業繁栄開運招福の守り神）の二柱であります。頂上の神殿は金澤百万石藩主代々の造営でありましたが平成八年七月百三十六年ぶりに建替えられました。山麓の芦峯寺には中宮祈願殿、岩峯寺には前立社壇の壮大なる神社が鎮座されてあります。当社は北アルプス山岳上の唯一の延喜式内国幣社であります。

立山頂上社務所